

7:9 その後、私は見た。すると見よ。すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣を身にまとい、手になつめ椰子の枝を持っていた。

7:10 彼らは大声で叫んだ。「救いは、御座に着いておられる私たちの神と、子羊にある。」

7:11 御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生き物の周りに立っていたが、御座の前にひれ伏し、神を礼拝して言った。

7:12 「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、私たちの神に世々限りなくあるように。アーメン。」

7:13 すると、長老の一人が私に話しかけて、「この白い衣を身にまとった人たちはだれですか。どこから来たのですか」と言った。

7:14 そこで私が「私の主よ、あなたこそご存じです」と言うと、長老は私に言った。「この人たちは大きな患難を経てきた者たちで、その衣を洗い、子羊の血で白くしたのです。」

7:15 それゆえ、彼らは神の御座の前であって、昼も夜もその神殿で神に仕えている。御座に着いておられる方も、彼らの上に幕屋を張られる。

7:16 彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、太陽もどんな炎熱も、彼らを襲うことはない。

7:17 御座の中央におられる子羊が彼らを牧し、いのちの水の泉に導かれる。また、神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。」

とありますから、ここに書かれている人々はイスラエルではなく異邦人、すなわち新約のキリスト者であることがわかります。

「彼らは大きな患難から抜け出て来た者たち」とありますから、地上においては迫害や転徙地異と体験したのでしょうか。それがどの程度かは分りませんが、少なくとも今の私たちよりも苦しい状況であったとは推察されます。彼らはそのような目に遭いながらも、救いを喜び神様を讃美しています。

患難や迫害を喜ぶ人はいません。しかしかりにそのような状況にあったとしても、主はそれを補って余りある恵と栄光を与えてくださるのです。小さな試練くらいは喜んで受けたいものです。また終わりの日の栄光を期待できるような歩みをしたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

